鹿児島市立桜丘中学校
令和５年１１月２２日

第８号

「どのタイミングで、どんな関わりを？」

校長　上久保大介

突然、２年前のことを思い出しました。

ある日の朝、教頭先生の代わりに学校を開けたときの話です。警備のセットを解除し振り返ると、小雨の中、職員用玄関の外で**黒いもの**が動きました。**「ネズミか？」「にしては大きかったけど。」「まさか巨大ネズミ？」**私は少しビビりながら、生徒用玄関の鍵を開けました。すると外にはその黒いものが大小合わせて２つ、足早に体育館の方に向かっていました。よく見るとそれは**狸の親子**でした。**「母子かな。」**と思うと、私は途端に後を追いかけたくなりました。狸は体育館の裏に向かっていました。「きっと校門の方に出てくるな。」と思った私は、体育館の校庭側から校門に向かいました。それは正門を開けるためでもあったのです。正門に近づき、私は体育館の陰に隠れ、こっそり見ていました。すると来ました。**お母さんが前で、少し遅れて子供**です。チョコチョコしてとてもかわいいです。**お母さん狸は寄り道をする子狸を振り返りながら**、急かしているようでした。お母さん狸は正門の門扉の下部にある鉄枠をまたいで先を急ぎました。子狸もその後を追いかけました。しかし、**身長の足りない子狸は、後ろ足が短くて鉄枠をまたぐことができません。**子狸はジタバタしましたが、どうしてもまたぐことができません。お母さんは振り向いたとき、ジタバタしている子供に気付きました。すぐに後戻って子供のそばまで来ました。でも、**子供を手伝おうとはしません**。それはまるで、**「大丈夫よ。あなたならできるから頑張ってごらん。」**と言っているようでした。子供は**「う～ん。う～ん。えい。えい。」**と頑張って、とうとうその鉄枠を越えることができました。**「よく頑張ったわね。えらいわよ。」「やったー。できたできたー。」**という会話が聞こえてきそうでした。私は急いで、門扉の鍵を開け、校門のスロープを駆け下りました。道路には母子の後ろ姿が見えました。**お母さんが少し前を歩き、子供はその後ろをチョコチョコと小走り。**２匹はそろって住宅街に消えていきました。どこに向かっていたのでしょう。元気に過ごしているといいです。

子供が頑張っているとき、**見守る**のも大切。子供ができたとき**褒める**のも大切。失敗しそうなとき、**励ます**のも大切。**少しだけ手伝う**のも大切。でも、**すべてをやってあげることは？**

どのタイミングで、どんな関わりをするかは難しいものです。